

6月は「水無月（みなづき）」と言われ、梅雨の時期が何故「水無月」と言われるのか?不思議ですが、「無（な）」は、現代の「の」に当たる用法で「水の月」というを意味するそうです。

サロンの先生、スタッフの皆様、先日どしゃ降りの日に訪問させていただいた際に、タオルを出していただき本当にありがとうございました。とても温かい気持ちになりました。



□基本に徹した生き方を

まず、アメリカに渡った元ジャイアンツの桑田真澄投手の次の発言を読んでください。

「僕はプロ野球をジャイアンツで二一年間やりましたけど、何一つとして応用問題をやったことがないんです。何一つ難しいことを一切やっていない。しかも二一年間、同じことしかやっていない。でも、基本さえできていれば、応用なんて簡単なんです。勝手に反応してくれるんです。今もそうですね。これからアメリカで挑戦しますけど、変わったことをするかと聞かれても、同じことしかしませんと答えるでしょうね」
（平成一九年三月二二日付『日経BPセカンドステージ』ホームページから）。

ここに紹介した桑田氏の言葉の中に、プロとして長く活躍してきた彼の秘密が示されています。つまり、「徹底して基本を繰り返し身につけていけば、応用問題は解決できる」ということです。今、大リーグで活躍しているレッドソックスの岡島秀樹投手は、巨人時代、桑田氏に学んだ人です。彼の活躍が、桑田氏の考え方が正しいことを証明しています。この桑田氏の発言を、一般の生活に当てはめれば、生活の基本動作である正しい習慣を繰り返し実行していれば、ちゃんと生きていけるようになる、ということになります。どうしてそうなるのでしょうか。それは、時代を超えて、正しい習慣を繰り返し行っている人や組織を、人々は無意識のうちに支援するように、世の中はなっているからです。その証拠に、テレビや新聞にはまったく登場しない無名の会社や商店で、多くの固定客の支持を受けて、長く繁盛を続けているところがたくさんあります。そこに見られるのは、顧客が厚い信頼を置く「基本に徹した生き方をしている」ことです。

「信念の偉大な力」 田中真澄著より